



## 育苗・ハウス管理について

初期生育を確保するためにはハウス内での健苗育成が鍵となります。生育ステージにあわせた温度管理と老化苗にならない適正な育苗日数を設け丈夫な苗作りを行いましょう。

### ●温度管理

苗の温度管理は稚苗もしくは中苗で変わってきますので苗姿に合わせたハウス管理をしましょう。

生育ステージ	稚苗 (乾籾130g～150g/箱) 育苗期間27日以内	中苗 (乾籾100g～110g/箱) 育苗期間32日以内
出芽期	出芽長1cm程度 20℃～30℃	出芽長0.5cm程度 20℃～30℃
1. 5葉期(緑化期)まで	日中 20℃～25℃ 夜間 10℃～12℃	日中 25℃以下 夜間 5℃以下
2. 5葉期(硬化期)まで	日中 15℃～20℃ 夜間 5℃以上	日中 15℃～20℃ 夜間 5℃以上
3. 5葉期まで		日中・夜間特に寒くない場合 常時ハウスを開放

ベタ張り時が高温だと発芽不良やバラつきの原因となります。ベタ張り除去のタイミングも重要です。

※稚苗は2.5葉期近くなり、田植え7日前となったら霜が降りない限り昼夜ハウスを開放し、外気に慣らして苗の充実を図りましょう。

### 注意

新しいビニール等の資材は光が通り温度が上がりやすいため苗焼けに注意して下さい。外気温が低い場合でも日照量が多ければハウス内の温度が高温になりますので遮光資材を活用するなどの対策を講じて下さい。

### ●かん水

かん水は午前中のうちにたっぷり行うのが基本となります。夕方のかん水は床土の温度を下げ、低温による病害の原因となります。また夜間は蒸散量が少ないため、根が酸欠状態となりますので注意しましょう。乾燥が激しい場合等でどうしても昼以降にかん水を行う場合は、15:00までに翌朝に残らない量でかん水して下さい。

### ●追肥

稚苗 : 1.5葉期頃に1g/箱を施肥する。 中苗 : 2葉期頃と3葉期頃に1g/箱を施用する。

どちらもロング肥料を使用している場合は追肥の必要はありません！

○液肥2号 ~ 1缶(5ℓ)を300ℓの水に溶かして600箱に散布 (60倍)

○硫 安 ~ 500gを水50ℓに溶かして100箱に散布 (100倍) ←必ず水洗いして下さい！

## ●ハウス内の主な病害

ハウス内で見られる病害等は、ハウス内の温度が適正でない場合に発生するものが増えております。育苗箱の表面に異常が無くとも、根に病害の症状が見られる場合もありますので、こまめにチェックをしましょう。また、1.5葉期を過ぎたらこまめに露払いを行い、苗立ちと風通しを良くするようにしましょう。

### ①リゾープス菌

<特徴> 白い菌糸状のものが発生し、出芽や生育に影響がでる。ひどくなると枯死する。

<原因> 出芽時の高温(32℃以上) 多湿 乾燥

<対策> 基本的にはハウスを開放し、温度を下げると解消する。  
ダコニール1000 500倍希釈液 500ml/1箱



### ②ピシウム菌

<特徴> 葉がしおれて、ロール状のようになる。昼にしおれ、朝になると回復するが、また昼頃しおれる。2~3日続くと枯死する。

<原因> 緑化期(1.5葉期)頃の低温

<対策> 播種時 タチガレエース粉剤(6~8g/箱)  
発芽後 タチガレエースM液剤(500倍 500ml/箱)



### ③フザリウム菌

<特徴> 籾を中心に赤色のようなカビが発生する。葉が萎えたようになり、その後枯死する。根組みも悪化。

<原因> 温度30℃以上または10℃以下など極端な高温や低温、極端な乾燥や過湿

<対策> タチガレエースM液剤(500倍 500ml/箱)



### ④トリコデルマ菌

<特徴> 籾の周りに青いカビが発生する。根が伸びず、根量も少ない。根組みが悪くなる。

<原因> 箱内のPHが低い 乾燥

<対策> ベンレート水和剤(500倍 500ml/箱)  
使用回数は1回以内



## ●稲作メールについて

おかげさまで稲作メールマガジンの登録件数は、メール配信の度に増えている状況となっております。これからも基本的な栽培管理から台風等の自然災害時の緊急的な対策情報などをタイムリーにお届けできるようにして参りますので登録のほどよろしくお願い致します。なお、登録方法が分からない場合、難しい場合は最寄りの営農センターもしくは本店米穀課までご相談下さい。

